

令和4年度1年間の計画で取り組んだ「自信をもたせる学習評価」プロジェクトの取組と成果についてお知らせします。



スケジュール	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学習評価プロジェクト	教務主任チームによる研究	今後は、毎年度、実践・改善を繰り返し、精度を上げます!		

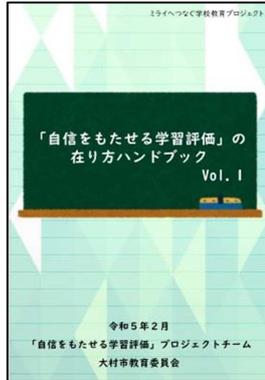
研究課題と研究成果(改善策)

【課題1】目標に準拠した評価の考え方や、発達障害や不登校の子供の評価の在り方が、未だ十分浸透しているとは言えない状況です。

【課題2】評価の基準が異なるために、通う学校によって評価が異なる事例があります。

「自信をもたせる学習評価」の在り方ハンドブックを作成しました!

- ◆教師は、日々の評価や校内研修等で参照し、評価の考え方や手順等について理解を深めます。



6中学校の定期テストを市内で共有する仕組みを作ります!(Google 共有ドライブの活用)

- ◆教師は、客観性の高いテストを作成する能力や評価資料の信頼性を高めます。
- 小学校は市販の単元テストを使用しており、学校や担任間での差は大きくはありません。
- ◆評価の観点「主体的に学習する態度」は、教師間の差が大きくなりがちであるため、ハンドブックで具体事例を示し、差の縮減を図ります。

やむを得ず登校できない、教室で授業を受けられない子供の学習評価は?

基礎疾患があつて感染症予防のため登校できない、あおば教室やconne、民間施設だけに通所している、自宅でオンライン授業を受けている、教室に入れず別室で過ごしている…さまざまな理由からやむを得ず教室で授業を受けることができていない子供たちは、**評価不能**や**評価△**、**評定1**となるのでしょうか?

児童生徒の皆さんや保護者の方に、ぜひお伝えしたいこと

「授業に参加していない」「提出物が出ていない」「挙手して発表していない」といった姿だけをもって、評価不能とされたり、△や1(努力を要する)と評価されたりすることはありません。

「やむを得ず授業を受けられていない」あなたへ、「自分は正しく評価してもらっているのかな?」というあなたへ

- 先生は、各教科の目標に照らして、あなたの学びの様子や足跡、成長した点、努力が必要な点を様々な見方や方法で把握し、評価します。
- それは通常、主に授業で指導している際に即時的に行われます。または、テストで確認されます。
- しかし、各教科で身に付けてほしい力の中には、「①授業を受けなければ身に付けることが難しい力」もあれば、「②各自の努力で授業を受けなくても身に付けることができる力」もあります。
- 【①の例】級友の意見により自分の考えを磨くこと
- 【②の例】書字や計算の力、出来事や現象の理解

- やむを得ず授業を受けられない人に対しては、特に②の力を見取ることができる材料を様々な機会に収集し、可能な限り評価します。
- その材料が十分に集められない、または評価する場面が極端に少ない場合は、他の人と同様に評価することができないため、教科の目標の実現状況を()を付けた評価で表しています。
- さらに、先生は、学びを続けてほしい、自信をもってほしいという思いから、数値化できなかった姿や成果を文章で表し、あなたに伝えたり、次年度の担任に引き継いだりしています。

☆担任の先生が見取ることができていないことがあれば、「漢字の練習を頑張ったよ」「教科書にはのっていないけど、こんなことを調べたよ」など、皆さんの思いをぜひ先生に伝えてくださいね。